

みやけ ゆきこ 雪子

支えあう社会へ

衆議院議員・生活の党代表

小沢一郎

OZAWA Ichiro

三宅雪子くんとはフジテレビの記者時代から25年以上の友人で、その持ち前の正義感と情熱は時として驚くほど腹の据わったところがあって、その突破力が今の政治には不可欠だと思っています。総理と戦って一敗地にまみれながらも、さらに新しい目標に向かって自らの政治的信念を貫こうとするブレない姿勢に私は強く共感しています。とりわけ弟さんが知的障がい者である環境もあって、福祉への思いは群を抜いており、一年生議員の間に勉強を重ね、めきめきと成長してきたことは私が一番知っています。女性の力こそが日本再生の要ともなる時代に、私は三宅雪子くんが力いっぱい国政で飛躍して欲しいと心から願っています。ぜひとも皆さまのご支援ご協力を心からお願いさせていただきます。

1965年3月5日ワシントン生まれ。逗子久木小・中学校、桐朋女子高、玉川学園女子短大、共立女子大を卒業、フジテレビに21年間勤務。福祉を志し政治の世界へ。2009年衆議院選挙群馬4区にて福田元総理に挑むも惜敗、比例復活当選。2012年衆議院選挙千葉4区にて野田総理に挑戦。衆議院時代は予算委員、厚生労働委員。初の執筆本『福祉と私』を昨年末に出版。祖父：石田博英（石橋内閣官房長官、元労相）父：三宅和助（外交官、元シンガポール大使）。現在、生活の党参議院比例区第7総支部長。

参議院比例区 第7総支部長

比例代表は「**個人名**」を書くことができます。



福祉が私の原点

皆に居場所のある社会、お互いをいたわりあう社会、全ての人に公平にチャンスが与えられる社会を目指します。「福祉の精神を後退させてはならない!」その強い思いで3年3ヵ月、厚労行政に取り組んできました。私の責務は弱い立場にいる人たちの声を政治に反映させることです。

著書 『福祉と私』

「支えあう社会」を国政の場から



福祉や社会保障への考え方や取り組み、高齢者問題、自殺者問題など、自身の考えをわかりやすくまとめました。

2012年11月30日
廣済堂出版



「国民の生活が第一」を貫く

「政治とは生活だ」の小沢一郎代表の理念に私は深く共感しています。生活とは経済・雇用・社会保障・教育など私たちが暮らしていく上で必要な全てのものを指します。そうした国民のいのちと暮らしを守る政策実現が政治家として当然の使命と考え、これからも戦い続けます。



三宅雪子待ち受け配信中!
携帯・スマホのQRコード(バーコード)リーダーで読み取ってください。